

特定非営利活動法人 難民自立支援ネットワーク 設立趣旨書

難民自立支援ネットワーク(REN: Refugee Empowerment Network) は、難民（帰還難民、第三国定住難民、難民認定申請者、国内避難民を含む）とその支援者のネットワークを構築し、これを基盤として、難民の経済的・社会的自立を積極的に支援し、彼らの人間としての尊厳を守ること（エンパワーメント）を主要目標とした非営利団体である。

2003年、ケニアのカクマ・キャンプに滞在する難民が自出版するキャンプ内新聞「カネブ」(KANEBU: Kakuma News Bulletin) の支援を行う為、RENの前身である「カネブ支援グループ」が発足した。この支援を受けたカクマ・キャンプの難民たちは、キャンプ内にコンピューター教室を開くなど社会的自立へ向けて一定の成果を示した。これを受けて「カネブ支援グループ」は、2007年5月にその名称をRENと変更し、ケニアだけでなく世界各地の難民（主にアフリカ）を対象としたより幅広い支援を目指すこととなった。

2008年現在までのRENの主な活動実績は、以下の通りである。

- ◆ カクマ・キャンプの難民による詩集「ママ・カクマ」を出版し、その印税を難民へ返還する。
- ◆ カクマ・キャンプの難民が自出版する新聞「カネブ」のウェブ掲載と日本語への翻訳。
- ◆ カクマ・キャンプの「カネブ」を通しコンピューター訓練センターの開設を支援。
- ◆ 2007年「世界難民の日」に、カクマ・キャンプと日本をスカイプで結び、対話の実現。
- ◆ ビーズ・アクセサリーの制作・販売を開始、その収益をRENの活動資金へ寄付。
- ◆ 日本在住の難民を対象に、ビーズ・アクセサリーの制作への参加を促進。
- ◆ 「千代子スカラシップ」を創設し、主にアフリカ難民への奨学金支給スキームを開始。

現在、RENの活動を更に充実させてゆく為、J-FUN（日本UNHCR-NGOs評議会）などを通して、難民支援分野の関連団体との連帯・連携を強化している。

しかしRENの活動は確実に発展を続けており、今後、難民の自立とエンパワーメントの実現に向けてよりよい支援を行っていく為、また国際平和の実現へより効果的に貢献する為には、RENが特定非営利活動法人と認知されることが必須であると考えている。

年 月 日

代表者 住所又は居所
1530061
東京都目黒区中目黒3-18-6

氏名 石谷 尚子 印

